

旭川市保育所児童保育要録

例 1

児童	より姓	〇〇〇〇	性別	現住所	〒000-0000
	氏名	〇〇 〇〇			旭川市〇条〇丁目〇番〇号
	生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日			
保護者	より姓	〇〇〇〇	現住所	〒000-0000	
	氏名	〇〇 〇〇〇		旭川市〇条〇丁目〇番〇号	
就学先		旭川市立〇〇小学校			
保育所名及び所在地		保育の過程と子どもの育ちに関する事項		最終年度に至るまでの育ちに関する事項	
〇〇保育所 旭川市〇条〇丁目		(最終年度の重点) ・保育所の生活を楽しみ、いろいろな遊びを活発に行うとともに、主体的に行動し、充実感を味わう。 ・友だち、保育士、地域の人たちとの関わりの中で豊かな人間性を培う。		・0歳児クラスに7ヶ月で入所。	
保育期間		(個人の重点) ・ルールを守って落ち着いて行動する。 ・試行錯誤しながら、あきらめずに意欲的に取り組む。		・0～3歳児クラスでは叩いたり噛んだりの他害行為が多かったが言葉で表現できるようになると減っていった。	
ねらい (発達を捉える視点)		(保育の展開と子どもの育ち)		・「疲れた」などの発言が多く、運動に意欲がなかった。4歳児の運動会のリレーでは負けた状態でバトンを受け取ったため走らず歩いてしまう。	
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	・体を動かすことよりも室内での遊びを好んでいたが、ごっこ遊びの中に運動を取り入れる事で楽しむようになった。その姿を言葉にし、認めていくことで積極的に取り組むようになり、運動遊びを通してあきらめない大切さ、協力する大切さを感じ、運動会のリレーではチームのために全力で走っていた。 (健康・人間関係 / ア・イ・ウ)		・本児の好む運動遊具を準備し、遊びに誘うことで少しずつ体を動かす事を楽しむようになってきた。	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	・自分の思い通りに遊びを進めようとしたり、玩具や遊具を独占したりする姿が多かったが、友だちが困っていることを具体的に伝えていくと譲ることができるようになり、自分たちで解決できるようになってきている。 (人間関係 / エ・オ)		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。	
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	・話を聞いている途中で鼻をかみに行くなど思い立った時に行動を起こしてしまうことが多かったが、その都度場面に応じた具体的な行動を知らせることで減ってきている。座席を正面に向けるなど集中しやすい環境を整える必要がある。 (人間関係 / エ・オ)				
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	・泣いている子や困っている子の気持ちに寄り添い、「大丈夫？」とやさしく声をかけることができる。その姿を認めていくことで、他児への関わり方に優しさが増していった。 (人間関係・言葉 / エ・オ・ケ)		ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道徳性・規範意識の芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現	
環境	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち、	・難しいことでも好きなことには根気よく取り組み完成させる力がある。お店やさんごっこで必要なものを友だちと話し合い、レジスターをいろいろな素材を使って作り上げる。 (環境・表現 / カ・ク・コ)			
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	(特に配慮すべき事項) ・5歳児2月に中耳炎のため鼓膜にチューブを入れる手術を受ける。 日常生活における制限は無し。			
言葉	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。				
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。				
表現	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。				
	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。				
表	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。				
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。				
現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。				
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。				
生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。					
施設長氏名		担当保育士氏名			

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

*最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

*保育の展開と子どもの育ち：最終年度の1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿(保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの)を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

○最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

旭川市保育所児童保育要録

児童	より姓	〇 〇 〇 〇	性別	〒000-0000	
	氏名	〇〇 〇〇		現住所	旭川市〇条〇丁目〇番〇号
	生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日			
保護者	より姓	〇 〇 〇 〇 〇	現住所	〒000-0000	
	氏名	〇〇 〇〇〇		旭川市〇条〇丁目〇番〇号	
就学先		旭川市立〇〇小学校			
保育所名及び所在地		保育の過程と子どもの育ちに関する事項		最終年度に至るまでの育ちに関する事項	
〇〇保育所 旭川市〇条〇丁目		(最終年度の重点) ・様々な体験を通して、主体的に行動し、充実感を味わう。		・0歳11ヶ月で入所。弟と父母の4人家族。 ・1歳の時は卵アレルギーがあったが、2歳になる頃にはなくなり、好き嫌いなく食べている。 ・身の回りのことは自立しており、縄跳びやかるたなど、意欲的に取り組んでいる。 ・4歳児クラスの運動会では入場から激しく泣く。泣きやむことができず、ほとんど父と母の所にいた。好きな競技の時だけ戻ってくるが、終わると走り去ってしまう。その様子を見て母が心配したため、〇月にパートナーティーチャー派遣事業訪問相談を利用する。 ・衝動性があり、ダメと理解しているのにやってしまうことがあるので、個別に配慮し関わった。 ・3・4・5歳児混合小グループでの活動体験を通して、自分の意見を言う機会が多くなり、それにより少しずつ感情をコントロールできるようになってきている。	
保育期間		(個人の重点) ・苦手なことにも少しずつ取り組み、自信を持つ。			
平成〇〇年〇月〇〇日～ 平成31年3月31日		(保育の展開と子どもの育ち)			
ねらい (発達を捉える視点)		(健康 / イ)		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。 ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道徳性・規範意識の芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現	
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	・体を動かす活動が好きで特に縄跳びでは「100回跳ぶ」と自分で目標を持ち、それに向かって取り組み充実感を味わうことができる。			
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。				
人間関係	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	・クラスで飼っているスズメシに関心を持ち、毎日観察することで生き物に親しみと大切にすることが育っている。			
	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	(環境 / エ・キ)			
環境	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち、	・劇の台本を読み込み台詞を覚えてナレーション役をやり遂げた経験により、文字を読むことに自信を持ち、友達に読んであげる姿が見られる。			
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	(言葉 / ク・ケ)			
言葉	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。	・年長クラスになったばかりの頃はゲームで負けると悔し泣きをし、気持ちを立て直すのに時間がかかっていたが、本児の悔しい気持ちに寄り添いながら事前に起こりそうな状況を説明すると気持ちの折り合いがつけられるようになった。			
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。	(人間関係 / ウ・エ)			
表現	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	・周囲から頼られると苦手なことでも意欲的に活動し役割を果たそうとするので、集団ではリーダー役を任せ、自信をもって活動に参加できるようになった。			
	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	(人間関係 / イ・ウ・エ)			
表現	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	・想像力が豊かで、お店やさんごっこをした際はペットボトルのキャップやビニールなどさまざまな素材を使って金魚をつくることを提案する。			
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。	(表現 / オ・コ)			
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。	(特に配慮すべき事項)			
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	5歳児4月から特別支援保育を受ける。活動の見通しを持てるように、個別の声かけを多くする。			
生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。					
施設長氏名		担当保育士氏名			

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

*最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

*保育の展開と子どもの育ち：最終年度の1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の様子（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

○最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

旭川市保育所児童保育要録

例 3

児童	より姓	〇 〇 〇 〇	性別	現住所	〒000-0000
	氏名	〇〇 〇〇			旭川市〇条〇丁目〇番〇号
	生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日			
保護者	より姓	〇 〇 〇 〇 〇	現住所	〒000-0000	
	氏名	〇〇 〇〇〇		旭川市〇条〇丁目〇番〇号	
就学先		旭川市立〇〇小学校			
保育所名及び所在地		保育の過程と子どもの育ちに関する事項		最終年度に至るまでの育ちに関する事項	
〇〇保育所 旭川市〇条〇丁目		(最終年度の重点) 友だちと話し合ったり互いに協力したり、支え合ったりしながら目標に向かって最後まで成し遂げる。		・2歳児から入所。姉と妹、父母の5人家族。 ・元気で人なつっこく、誰とでも平等に接することができるため、友だち関係は比較的良好である。友だちの嫌がることはせず、テレビ番組に出てくるお笑い芸人のネタを真似する等ユーモアな面もあり、いつも明るい雰囲気を提供してくれる。	
保育期間		(個人の重点) 友だちと思いや考えを伝え合い、試行錯誤して関わり楽しむことができる。			
平成〇〇年〇月〇〇日～ 平成31年3月31日					
ねらい (発達を捉える視点)					
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	(保育の展開と子どもの育ち) ・基本的な生活習慣が身に付き見通しを持って行動することができる。食事時間がかかることがあるが、好き嫌いをなくよく食べる。		・寂しさから上手く気持ちを切り換えることができずくじけてしまい、立ち直りに時間がかかる。くじけてしまうと登所時に保護者と離れる時泣き出してなかなか離れられないことが続く。家庭と連携し、保育所での様子を聞いてもらったり登所時に迎える時間を伝えてもらったりと工夫して援助してきた。続けていくうちに元気に登所するようになる。	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	(健康・人間関係 / ア)			
人間関係	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	・失敗や間違えることで落ち込むことがあったが、結果にこだわらず取り組んだ過程を認めることで気持ちを切り替えられるようになってきている。			
	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	(健康 / エ・オ)			
環境	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち	・積極的に覚えた言葉を使って気持ちを相手に伝えようとし、自分が体験したことを相手に順序立てて話すことができる。			
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	(人間関係・言葉・表現 / ケ)			
言葉	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。	・踊りや歌が大好きで覚えるのが早く、伸び伸びと表現し楽しんでいる。発表会ではダンスの振り付けを考え提案してくれることもあった。		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。	
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。	(人間関係・環境・表現 / カ・ケ・コ)			
表現	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	・初対面の人や初めての場では恥ずかしがることもあるが、日々の挨拶や何気ない会話を通し関わっていく中で打ち解けることができるようになる。			
	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	(人間関係 / コ)			
表	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	・友だちと共通の目的を持って考えたり協力することができる。話し合いの活動には自分の考えを言うだけでなく、友だちの意見にも共感したり今までの経験を元に意見をまとめることもできるようになってきている。			
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。	(人間関係・言葉 / ウ・ケ)			
現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。				
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	(特に配慮すべき事項) ・乾燥肌で状態が悪化した時は塗り薬を使用している。 ・4歳の5月頃乱視、遠視と診断され矯正するため眼鏡をかけている。年に1回程度受診。運動時と給食時間は外している。 ・5歳の8月高熱が続き欠席する。脱水症状と太ももの腫れで入院。検査をするが原因不明。10日で退院するが寝たきりで筋力低下もあり、しばらく自宅療養する。			
施設長氏名		担当保育士氏名			

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

*最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

*保育の展開と子どもの育ち：最終年度の1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

○最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。